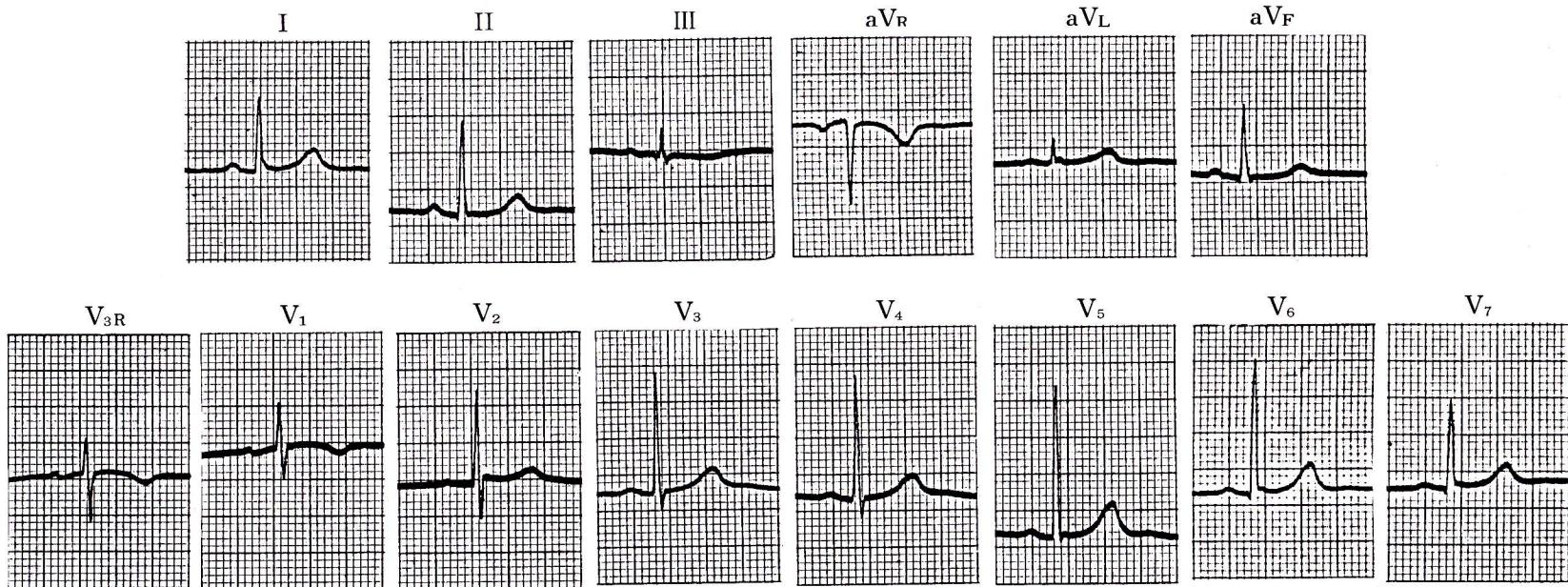


症例 9

● 22歳 女

- 蛋白尿精査のため来院。



1) V₁のR/Sが1より大であるが右室肥大か。

正常（反時計方向回転）

V_1 に高いR波を認め $R/S > 1$ だが、 V_1 から左へ向かうにしたがって、 R/S が大きくなる。移行帶は V_1 の右側にあり、反時計方向回転である。 V_1 の高いR波と $R/S > 1$ は右室肥大でも認められる所見であるが、本症例では、前額面QRS

電気軸は正常で、 V_5 、 V_6 にも深いS波を認めない。 V_2 から V_7 まで軽度のST上昇がみられるが、下に凸であり正常のST上昇である。このような右側胸部誘導のST上昇は、反時計方向回転ではよくみられる。

MEMO <胸部誘導のR波とS波の大きさ>

